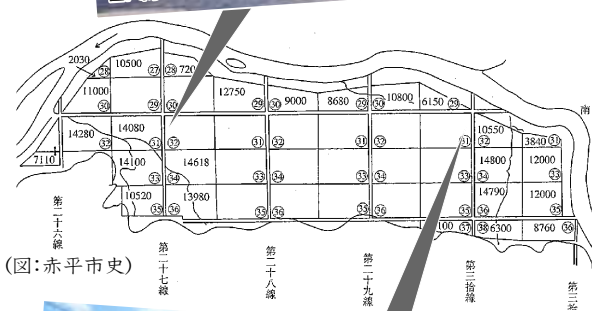


# あかびらの 今と昔

今と昔のあかびらでは、どのように変化をしているのでしょうか。ここでは、昔の懐かしいイベントや風景、建物などを紹介していきます。

## 「線」

「字ピラケシ第27線〇番地は、どのあたりなのでしょう。」  
 9月のとある日、市外にお住まいの方からの突然の問い合わせに戸惑っていました。ピラケシは平岸だとして、「第〇線〇番地」という住所は聞いたことがありませんでしたので……  
 いきなり話は明治25年にさかのぼります。この年、空知川沿岸の区画設定が始まり、そのときにつくられたのが「第〇線〇番地」の区画割り。北海道らしく碁盤の目状に区切っている線は、現在の平岸西町に第26線、平岸東町に第31線が通りました。第27線は旧平岸中学校や浄光寺付近の市道にあたります。かつて



(図：赤平市史)

は線と隣接する区画に「第〇線〇番地」という地番がつけられていました。ちなみにスタートの第1線は滝川公園(砂川市富平)付近にあったそうです。  
 実は、平岸の踏み切りには「第〇線踏切」という名前がついています。中央バスには「30線」という停留所もあります。「線」は、まだまだ身近な地名として残っているのです。  
 冒頭のお問い合わせの方には、市史で無事に該当の場所をお伝えでき、思いがけず、ご先祖様のお名前も見つけられました。赤平で自分のルーツを巡る旅をされる方には、「赤平市史」の活用をおすすめします。(宣伝です。)



30線(北の洋らんから山側を見る)

炭鉱遺産の保存・活用業務担当の大藤です。  
 旧住友赤平炭鉱坑口浴場と赤平市炭鉱遺産ガイダンス施設では、9月8日から赤平アートプロジェクト2018を開催しています。  
 僕がイチ押しする展示作品は、苔(こけ)を並べた旧住友赤平炭鉱坑口浴場内の浴槽です。製作者は札幌市立大学の上遠野 敏 教授と大学生で、閉山して24年経った住友赤平炭鉱が自然に返った姿を表現した作品だそうです。僕も、かつて多くの鉱員さんが利用していた坑口浴場に苔を並べることで、炭鉱遺産の美しさが表現されていると思います。

この他にも面白いアート作品や催し物が見られますので、ぜひお越しください！

地域おこし協力隊 大藤

### 地域おこし協力隊通信



旧住友赤平炭鉱坑口浴場内の作品。製作をされた上遠野先生(右端)と大学生の皆さん。